

日本標準商品分類番号 87 3319		
KN3号輸液	200mL 袋	500mL 袋
承認番号	22000AMX00454	
薬価収載	2008年6月	
販売開始	1992年10月	1989年1月
再評価結果	1978年3月	

処方せん医薬品^{注)}

総合電解質輸液

KN3号輸液

(維持液)

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱上の注意の項参照

注) 注意－医師等の処方せんにより使用すること

KN No.3 Injection

【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

- (1) 高乳酸血症の患者 [症状が悪化するおそれがある。]
- (2) 高カリウム血症 (乏尿、アジソン病、重症熱傷、高窒素血症等) の患者 [症状が悪化するおそれがある。]

※【組成・性状】

1. 組成

本剤は1容器中に次の成分を含有する注射液である。

成分	200mL 中	500mL 中
塩化ナトリウム	0.35 g	0.875g
塩化カリウム	0.3 g	0.75 g
L-乳酸ナトリウム	0.448g	1.12 g
ブドウ糖	5.4 g	13.5 g
熱量	21.6kcal	54kcal

電解質濃度 mEq/L

Na ⁺	K ⁺	Cl ⁻	L-Lactate ⁻
50	20	50	20

本剤は添加物として水酢酸 (pH調整剤) を含有する。

2. 製剤の性状

本剤は無色～微黄色澄明の注射液である。

pH 約5.4 (製造直後の平均実測値)
4.0～7.5 (規格値)

浸透圧比 約1 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

経口摂取不能又は不十分な場合の水分・電解質の補給・維持

【用法・用量】

通常成人、1回500～1000mLを点滴静注する。

投与速度は通常成人1時間あたり300～500mL、小児の場合、1時間あたり50～100mLとする。

なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 腎不全のある患者 [水分、電解質の調節機能が低下しているため、慎重に投与すること。]
- (2) 心不全のある患者 [循環血液量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]
- (3) 重篤な肝障害のある患者 [水分、電解質代謝異常が悪化するおそれがある。]
- (4) 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者 [水分、電解質の過負荷となり、症状が悪化するおそれがある。]
- (5) 糖尿病の患者 [ブドウ糖の組織への移行が抑制されているため、高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

大量・急速投与：大量を急速投与すると、脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫、水中毒、高カリウム血症があらわれることがある (第一次再評価結果その14、1978年)。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

- (1) 投与前：
 - ①尿量は1日500mL又は1時間あたり20mL以上あることが望ましい。
 - ②投与に際しては、感染に対する配慮をすること (患者の皮膚や器具消毒)。
 - ③寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
 - ④開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (2) 投与时：ゆっくり静脈内に投与すること。

【薬効薬理】

手術侵襲ウサギを用い、術後4日間にわたり本剤を50mL/kg/日点滴静注した。その結果、電解質 (Na⁺、K⁺、Cl⁻) 出納は術後第1日目から第4日目にかけて良好に平衡状態を維持した。

また、血液pH、Pco₂、HCO₃⁻はいずれも術後第5日目に術前値まで回復し、血漿NPN (非蛋白性窒素) 濃度も術後第3日目には術前値まで低下するなど、術後維持液としての有用性が確認された¹⁾。

【取扱い上の注意】

- (1) 注射針はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。斜めに刺すと注射針が容器頸部を貫通し、液漏れの原因となることがある。
- (2) ソフトバッグ製品は、原則として連結管を用いたタンデム方式による投与はできない。
- (3) 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。
- (4) 容器の液目盛りはおよその目安として使用すること。

【包装】

KN3号輸液

200mL 20袋 ソフトバッグ入り
500mL 20袋 ソフトバッグ入り

※【主要文献及び文献請求先】

主要文献

- 1) 桑波田十九男, 他: 新薬と臨床 1975; 24(5): 795-807

文献請求先

株式会社大塚製薬工場 輸液DIセンター
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-2
TEL: 0120-719-814
FAX: 03-5296-8400